

鵬程万里
前途が明るく、
将来の見通しが
ある

JR東日本労働組合

ジャーナルエイト

2018年 2月 20日 NO35

発行者 清水 次昭

編集者 教宣部

〒192-0073 八王子市寺町40-4

TEL053-2625(JR)042-686-0664(NTT)

新しい年を迎えた、一月五日に地本は事務的な事柄から組合活動を始めた。

当日は、清水執行委員長をはじめとして役員・執行委員が顔を揃えた。そして嬉しいことに前執行副委員長長の鈴木さんと安藤さんが忙しい時間を割いて駆けつけてくれた（お酒持参）。

いつになく賑やかな事務所となっていた。新旧役員、執行部の集まりは交流会（懇親会）へと進展していった。となれば自然と会話も弾み酒量も増していくのは火を見るより明らかだ。

新しい任務に就いた役員は、前任者（地域や平和運動）が顔を見せてくれたことで、これ幸いとばかりに、質問攻めで喰らいついてきた。春季生活闘争を向かえる時期でもあり、連合等の地域の行動・活動内容について、真剣な眼差しで熱く話し込んでいた。これまでの自分の殻を破り、新しい自分なりの役員像を創ろうとする貪欲な姿勢を見るのができた。

当然、その後の酒宴がひたすら長く続くことは容易に想像できたが、まさか年末年始の暴飲疲れがここで祟るとは思わなかつた。と

は出席者の弁。体調不良は今も座薬による治療中の方もいるようだ（ショック）。

新春の集い



清水執行委員長挨拶「要旨」
新年、明けましておめでとうございます。

昨年は全国で台風による大規模災害が発生しました。特に福岡・大分県の被害は甚大でした。被災された方は、新年を迎えた今も復興に尽力しています。度重なる自然の猛威は此処にきて大雪よる雪害まで引き起こし列車の運転に支障をきたしました。
復旧作業に尽力された方々に感謝申し上げます。

また会社における事故も多発した年でもありました。多発する部内事故に安全は阻害され続けています。私たちは、安全の確立を最優先に労使・労組の垣根を越えて取り組み「お客様をはじめ、全てのJR関係者の死亡事故ゼロ・重大事故ゼロ」を目指します。

JR東日本の平成29年度、第2四半期決算は営業収益が6期連続かつ第2四半期決算としては過去最高を記録しました。組合員の努力により積み重ねられた利益は現場で働く組合員に還元すべきであり、経営陣に強く求めていく決意です。

2018春闘の課題ですが、経団連は18春闘の経営側指針となる、ベアと定昇を合わせた月例賃金を3%引き上げるよう呼び掛けることを明らかにしました。安倍首相の期待（官製春闘）に呼応したものと考えられます。私たちは「賃上げは闘いとる」との意識を全組合員で共有し、JR労働者の力を結集し春闘に向けた取り組みを強化します。
政治に目を向けますと、昨年の突然（用意周到に準備された）解散は安倍首相の目論みどりの結果とな

りました。強大な数を背景に改憲議論や働き方改革「みなし労働時間・裁量労働制の拡大」等の議論をリードし、森友問題を葬りさると考えているのではないかと政治活動について、私たちは後世に平和で安全な日本を残すために、引き続き地域の仲間と連帯を強化することとします。

一昨年は、地域の皆さまの支援により交運労協三多摩ブロックに加盟することができました。昨年は東京地方本部と八王子地方本部にて協力しJR東日本東京都協議会を立ち上げ、連合東京三多摩ブロック地協に加盟することができました。本当に、ありがとうございます。

JR東日本労働組合の結成から5年が経過しました。この間、東日本において29名の組織拡大がありました。八王子としても拡大に向けて戦略を強化しなければなりません。

私たちは、JR東日本におけるJR労働運動の大同・団結、一元化を目指してJR東日本労働組合を結成しました。目標達成のために、エルダー社員を含めた組織の強化拡大の闘いを展

開しなければなりません。今年も組合員の声を大切にして、目標に向かって邁進することを、お誓いすると共に全組合員が一丸となって前進する一年にして頂くことを祈念申し上げます。の挨拶とさせていただきます。

JR東日本労働組合
八王子地方本部の春闘

私たちは、最大の労働条件である賃金引き上げに向けて「18春闘を、賃上げを勝ち取るぞ」とし、官製春闘からの脱却を意識して取り組む決意を意思統一した。本来あるべき春季生活闘争を組合員の手に取り戻す。「官から民に取り戻す」
当たり前の労働運動・原点
回歸こそが求められている。
しっかりと闘い抜こう！

3月11日（日）
地方委員会「代表者会議」
（共済担当者会議）
場所 八王子労政会館
時間 10時30分

組合員の協力と真摯な議論に期待します。